

第2章 将来構想

1 20年後に実現したい京都府の将来像

総合計画では、概ね20年後の2040年に実現したい京都府社会の姿として「一人ひとりの夢や希望が全ての地域で実現できる京都府をめざして」を掲げた上で、次の4つの姿を提示しています。

(1)「人とコミュニティを大切にする共生の京都府」

子育てに優しい社会は、全ての世代にとっても暮らしやすい社会です。一人ひとりの尊厳と人権が尊重され、女性も男性も、子どもも高齢者も障害者も、外国人も、全ての人が地域で「守られている」「包み込まれている」と感じ、誰もが持つ能力を発揮し、参画することのできる社会づくりを。

そして、2040年の京都府社会の姿として、誰もが生き生きと暮らし、幸せを実感できる、

「人とコミュニティを大切にする共生の京都府」を実現します。



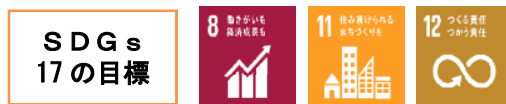
(2)「文化の力で新たな価値を創造する京都府」

地域の文化を継承・発展させ、京都府に住む人、学び働く人、訪れる人など全ての人を惹きつけ、さらには、文化が、観光、食、伝統産業から先端産業まであらゆる分野と融合し、京都流の新たな価値を創造し、発信し続ける社会づくりを。

そして、2040年の京都府社会の姿として、

暮らしの中に多様な文化が息づき、文化の力が、京都力の源泉となり、

「文化の力で新たな価値を創造する京都府」を実現します。



(3)「豊かな産業を守り創造する京都府」

大学や多様な企業、研究機関の集積を生かし、高度人材の確保、あらゆる産業分野の融合、ビッグデータの活用、更には、AI*¹⁰、IoT分野の新たな技術開発やその活用で、イノベーション*¹¹を起こし、キラリと光り輝く企業が府内のあらゆる地域に立地している社会づくりを。

そして、2040年の京都府社会の姿として、

伝統と先端の融合により、

「豊かな産業を守り創造する京都府」を実現します。



(4)環境にやさしく安心・安全な京都府」

頻発する自然災害の要因とも言われる気候変動に適応し、「脱炭素」で環境にやさしい社会を実現するとともに、ハード・ソフトの両面から、災害・犯罪等からの安心・安全、そして全ての地域が地域資源を生かした豊かさを実感できる地域づくりを。

そして、2040年の京都府社会の姿として、
地球環境と調和した、しなやかで強靱な
「環境にやさしく安心・安全な京都府」を実現します。



2 20年後の道路の姿

前章で記載した京都府を取り巻く状況も踏まえ、総合計画で提示された“20年後に実現したい京都府社会の姿”をつくる道路施策の将来構想として、以下の4つの“20年後の道路の姿”を提示します。

【京都府総合計画】	【京都のみち 2040】
“20年後に実現したい京都府社会の姿”	“20年後の道路の姿”
(1) 人とコミュニティを 大切に共生の京都府	1 日常生活を支え、すべての人に やさしい道
(2) 文化の力で新たな価値を 創造する京都府	2 豊かな文化・観光資源を活かし、 相互に魅力を高め合う道
(3) 豊かな産業を守り 創造する京都府	3 効率的な移動を支え、 産業の発展を生み出す道
(4) 環境にやさしく 安心・安全な京都府	4 災害に強く持続可能な社会を つくる道

*9 「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称で、2015年9月国連サミットにて採択された2016年から2030年までの国際目標

「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための17の目標で構成されている

*10 「Artificial Intelligence (人工知能)」の略称で、学習・推論・判断といった人間の知能の機能を備えたコンピュータシステム

*11 新しいものを生産する、あるいは既存のものを新しい方法で生産すること